

## R5年度 実施報告書

ひなぎく幼稚園

本年度重点的に取り組む目標（太字項目について後述）

- (1) キリスト教の教えを生かし、思いやりの心を育てる
- (2) 多様性を生かした教育活動をする
- (3) 木育教育
- (4) 自然観察を楽しむ
- (5) 演劇、音楽、美術工芸による教育を行う
- (6) 預かり保育の充実を図る
- (7) 地域の子育て家庭を支援する
- (8) 入園予定者のガイダンスとプログラムを整備する
- (9) SDGs に配慮した園運営を行う

### (1) キリスト教保育

キリスト教の教えを生かし、思いやりの心を育てることを園の目標に掲げている。キリスト教保育への理解を深め幼児教育に当たれるよう、教員は関連書籍を読み合い、積極的に研修に参加した。キリスト教保育誌を読み合う月例教師会は予定時間を余すことなく議論が続いた。

<文献購入>

キリスト教保育（2023年4月号～2024年3月号）計144冊

おはなしのこみち（お話集） 計37冊

<参加研修>

キリスト教保育連盟関東部会夏の研修会（8/1～3）4名

#### 【研修報告書より抜粋】

おはなしのこみち：短いお話に加えて保育のひとこまや祈りの言葉、歌などもちりばめられており、読み物としても面白く、具体的なお話を読んでいく中でどんなことを語ったら良いか、自分の気づいたことや子どもたちに伝えたいことをお話にしてもよいのだと気づくことが出来ました。（略）自分自身が神様を感じ、子どもたちとともにその心を分かち合うような礼拝の時間が持ていけるといいなと切に願います。（略）

夏の研修会：非認知能力は社会人に必要な力です。それを幼児期に育むことが大切であり、キリスト教保育ではそこを育むことができるが、非認知能力を育む保育は保護者の目には見えないので、（略）ドキュメンテーションを豊かにして保護者にキリスト教保育の良さを伝えていけるようになりたいと思いました。

「何をやってもいいんだよ」という安心の中で遊べるように、常にこの環境を作りたい。遊

びの中で種をまいていく。

### 【2024年3月 年長組学年だより 抜粋】

先日、園長先生が保育修了式でモーセの従者ヨシュアの話がされました。モーセ亡き後、人々を導けるか不安に思ったヨシュアは神さまからこんな言葉を伝えられます。「(中略)わたしは、モーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ。」(ヨシュア記 1:5・6)

クラスの礼拝でもこの話をした時、礼拝後に「先生。実は小学校行くのちょっと不安だったんだけど、先生が"神さまはいつも共にいる"って言ってたから、ちょっと安心したんだ」と話に来てくれた人がいました。

小学校に行くことを楽しみに思う人もいれば、不安な気持ちの人もいるでしょう。でも、大丈夫。神さまの存在をこんなにも感じられるようになったひなぎく幼稚園の子どもたちはどんな時も「強く、雄々しく」いられると思います。

ひなぎく幼稚園での育みを糧に強く、雄々しく、いつまでも神さまと共に歩むことができますように。

## (2) 多様性を生かした教育活動をする

外国籍や特別な配慮を必要とする幼児など、様々な背景を持つ幼児が集まり園生活を送っている。それぞれの多様な個性を尊重しともに生活していくために、そして世界の多様さについて考えるための取り組みを年間通して実施した。

### ・年長英語活動

ネイティブの英語講師を週1回招き、年長組各クラスにて英語の時間を持つ。英語の歌やゲームを通して、英語を楽しんで用い海外の文化に触れる機会を設けた。

<実施効果>年間計30回を実施



### ・海外文化に触れる

海外にルーツのある保護者や幼稚園関係者、海外で活躍する日本人を園に招き、お話をうかがう機会を設ける。

<実施効果>その国について知り、世界の多様性について考える機会となった。



(カナダ・ケニア・スイスより)

**【2023年9月 年長組クラスだより 抜粋】～市橋さら先生が来園されました～**

ケニアのコイノニアという学校から市橋さら先生が来園されました。スラムの子どもたちが貧困の中から希望をもって生きていけるようにコイノニアを開設されたことや、生活や遊びや勉強の様子について、写真や映像と一緒にお話してくださいました。質問コーナーでは「好きな〇〇は何ですか？」という子どもたちの疑問に丁寧にお答えくださり、日本と大きく異なることや共通していることもあることに子どもたちは驚きを交えながら、関心をもつ姿が見られました。

講演会後には「コイノニアの子どもたちもお祈りしてたね」「友達になりたいな」「同じことも違うこともあった」「古切手たくさん集める！」という感想がありました。神様が創られたこの世界にいる人々は仲間であることを知り、世界のために私たちにできることは何か考えられる大人になってほしいですね。

平和、戦争、貧困、環境問題等について、礼拝や絵本を通して考えてきた年長組にとって、世界をより身近に感じ、私たちは世界と繋がっていることを子どもながらに学ぶことができたと思います。

**(3) 木育教育**

年間を通して、木工室を園児に開放できるように整備が進めた。

<実施効果>年長のみならず、本物の材料・道具に触れながら挑戦をし作りあげる経験をした。

**【2023年8月2日 インスタグラム投稿】**

夏期休暇中の預かり保育が始まりました。連日、年少組から年長組の子どもたちがやってきます。(略)

ある時は、木工あそびを楽しみます。紙のやすりで木っ端の表面を滑らかにして、ペンダントを作りました。じっくりと無心に取り組む。そんな時間の過ごし方もありますね。



### 【2024年3月 年長学年だより】～卒園製作～

卒園に向けて・大工・ひもかけ・あみものの3つから選び、卒園製作を行いました。

(略)

大工の人たちは椅子やテーブルなど本当に座ったり食べたりできる物を作りました。自分で作った作品でお弁当をいただいたり、絵本を読む姿はかわいらしかったですよ。

ひもかけは大工の釘で形を作り、紐を順番にかけていきました。雪だるまや星、十字架を作り上げた人がいました。紐をかけるのが意外にも難しく、解けてはじめてからになるなど苦戦している人もいましたが、素敵な物が出来上がったと思います。(略)



### (5) 演劇、音楽、美術工芸による教育を行う

音を楽しむことを大切に、打楽器等の整備を進めている。

また美術工芸については、新たな表現方法を学び幼児教育に取り入れることが喫緊の課題であった。研修に積極的に参加し、新しい画材の購入等、絵画制作の環境を整備している。

<参加研修>

初級・上級絵画指導インストラクター養成講座 (9/30,10/1) 2名

幼児造形教育研究会夏の研修 (8/19) 5名

#### 【研修報告書より抜粋】

インストラクター養成講座：道具や表現方法の発見。クレヨンとクレパス、えのぐなど素材の違いや用具の種類など、また適切な使い方なども学び、子どもたち自身に伝えていかなければと思った。

点描画の道具としてペット用の耳かき、100均ボール+竹ひご、ティッシュを丸めプチプチで包み輪ゴムでとめる、綿棒など

上手に描くではなく、気持ちを湧き上がらせるような描画指導をという考え方。ひなぎくでも当然と思っているが、実際どう引き出すのか、その具体的な手法をいくつか学べた。

子どもにとって分かりやすく、部分を意識させていくという点はとても興味深かった。



夏の研修：描かねばならぬではなく描きたい！を引き出す保育環境を整えていくこと。モノを選ぶことも大人の役割である。道具や具材だけでなく描くというその場にいる人（子ども含む）すべてがモノである。そしてモノとの関わり、つながりが積み重なっていくことで、子どもの造形が育ちに関わっていくことになる。

色々な場面で子どもたちが心を動かしたときにそれを表現すること、それを様々な材料や手法を保育者がよく知り、よいタイミングで子どもたちにおろしていくことが必要だと感じました。そして子どもたちへの描きたい気持ちを導き出す言葉かけがとても参考になりました。

#### 【2024年1月 年長組クラスだより 抜粋】～親子音楽会。そして、楽器あそびへ～

讀賣交響楽団による親子音楽会を觀賞いたしました。マリimbaやスネアドラムなど幼稚園では見かけない楽器やタンバリンなど馴染みのある楽器を使った演奏がありました。太鼓の音に驚く年少さんをよそに、体にビシビシと振動が伝わってくる不思議さを体感したり、スネアドラムをスーパーボールで奏でる不思議な音に興味を示したりと大変有意義な音楽会でした。

音楽会後は幼稚園にある楽器で楽器あそび。普段は活動の時にしか使わないので、自由に使える環境と音楽会での体験で、楽器の部屋はあっという間に満員になりました！翌日以降も楽器コーナーが人気だったので、何曲か楽譜を用意。音楽経験のある友だちと協力しながら練習する姿が見られました！



#### （7）地域の子育て家庭を支援する

2023年4月より子育て広場デイジーを開室した。地域の子育て世帯の交流の場を設け、スタッフが子育て相談に応じ情報提供を行っている。

＜実施効果＞年間計18回、参加者延べ62組